

## 言葉を繰り返し体感すると、心が動く

私は日本文学の研究者になる前、約2週間ほど被爆者の方々の講演の同時通訳を務めたことがあります。微細なニュアンスを含めてできるだけ正確に訳そうと努めた結果、3日目にはそれぞれの方の性格もわかり、言外に伝えたいことがみえてきて、手応えを感じていました。ところが5日目に、途中で突然言葉が出なくなりました。

彼らの言葉に何度も繰り返し息を吹き込むうちに、彼らがみた風景や現実、おそらくご本人も折り合っていないさまざまな感情が、言葉を介して私の心の中に同期してしまったのです。訳が止まったことを深く反省した一方で、文学研究を志す者としては、言葉にのせて体感する感情を受け止められてよかったと思いました。

例えば能楽は、600年以上前に書かれた言葉に繰り返し息を吹きこむことで、当時の人々が見たもの、感じたことを追体験できるものです。こうした体験の機会はどんどん減っていますが、子供のうちから体で芸能の力、言葉の力を感じ取る機会をもつことは、とても大切ではないでしょうか。

## 『「キッズ伝統芸能体験」10年の軌跡』出来

この春、標記の冊子が発行された。副書名は「子供の未来をひらく」。根底にあるのは、「これから生きる子どもたちには伝統芸能が必要だ」という、10年の経験から得た確信である。全体は、「写真でたどる稽古と発表会」と「インタビュー」を両軸に、実施概要・講師一覧をまとめた「記録」からなる。

さまざまなシーンで見せる子どもたちの表情は、最も雄弁に、この体験の意義と価値を伝える。地道に時を重ねる稽古と、ひと時に集中して力を出し切る発表会。ジャンルごとの雰囲気の違い。伝統芸能の多彩な魅力が浮かび上がる。

インタビューでは、修了生の“その後”をナマの声を通して追跡するとともに、各界のトップランナーが伝統文化について語る。前半は6組の修了生と家族、先生の声。日本を世界に伝えたいと語る双子の兄弟、稽古を続けている男子と女子、体験をきっかけに進路を見つけた女子大生、新たな自分を発見した男子等々。子どもたちの柔軟な感性と測り知れない可能性に圧倒される。彼らの言葉を補完するために、昨夏に実施した修了生アンケートの結果も添えた。

特別インタビューは、コシノジュンコ、十三代中川政七、ロバートキャンベルの三氏。斯界を代表する人たちならではの「普遍の真理」が、強い説得力を放つ。ことに、キャンベル氏の「自ら言葉を発することは、一番、生の神経に触れる」という発言は、心の奥深くに刻み込まれた。

この事業が10年にわたり続けられたのは、関係諸機関の協力はもちろん、実演家とそれぞれの専門領域を支える数多くのプロたちの力があったからこそ。それらすべての原動力は、伝統芸能への敬意、誇り、愛情。そして、子どもたちの未来への希望であることは確かである。



### キッズ伝統芸能体験とは

東京都・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）・公益社団法人日本芸能実演家団体協議会が、公益社団法人能楽協会・公益社団法人日本三曲協会・公益社団法人日本舞踊協会・一般社団法人長唄協会の制作協力下に主催している事業。

子どもたちが一定期間にわたり、伝統芸能の一流の実演家から直接指導を受け、最後にその成果を本格的な舞台で発表します。「本物体験」を通じて、日本人が大切にしてきた伝統文化への理解を深め、その心を次世代へ継承することを目的としています。東京2020公認文化オリンピック認証事業。[www.geidankyo.or.jp/kids-dento](http://www.geidankyo.or.jp/kids-dento)

※本書の内容は、4月下旬にウェブサイトでも公開する予定です。

☆2018年度参加者募集中（6/6締切）

## 急がば回れ！ 実演芸術を支える専門家たちの挑戦

音楽、演劇、舞踊、演芸、伝統芸能等の実演芸術は、舞台に立つ人だけで成り立つだろうか？ 実は、観客の目に見えない部分を支えているのは、プロデューサー、制作者、音響や照明等の舞台技術者等の専門性を持った人々。一つひとつの舞台作品は、大勢の専門家が集結してつくりだされるのだ。実演家もスタッフも、劇団やオーケストラ等の芸術団体や劇場に所属している人もいれば、フリーランスとして活動する人もいる。

そうした実演芸術の専門家たちが、視野を広げ、スキルを高めていくために、所属団体とは別の団体や劇場での研鑽の機会を提供するのが、文化庁「国内専門家フェローシップ制度」。芸団協は事務局として、数ヶ月にわたる研修のサポートをしている。2017年度は8名が各地での研修に挑戦した。

芸術創造を続けていくためには、キャリアに応じた研鑽の機会が必要だ。それぞれが能力を高めること、そして地域を超えて網目のように専門家同士のつながりが広がっていくことは、全国各地で私たちが素晴らしい芸術作品を鑑賞するための、大切な下支えになるのだ。

知多市勤労文化会館の館長・樋口寿弥さん（運営管理）は、公的資金を活用して行う文化会館の活動について、自身の考えを整理するためにもあらためて学びの機会を得たいと、可見市文化創造センターでの2ヶ月間の研修に挑戦。劇場職員としての考え方、地域における劇場の存在意義を考え、多くの人たちに伝えるためのヒントを得た。研修を通して、地域の人たちと一緒に社会課題を捉えていきたいという目標が生まれ、支え合いが生まれる会館を目指したいと意気込む。



「かに寄席」にてスタッフと（写真中央）



NPO法人こどものみかたを主宰する五田詩朗さん（企画・制作）は、自身の演奏家としての経験を生かしながら、クラシック音楽のワークショップやコンサート等を企画してきた。立ち上げ間もないNPOの運営に活かすために、ミュゼ川崎シンフォニーホールで5ヶ月間にわたる研修を実施。研修を通して、企画から本番までの事業の一連の流れをホール職員とともに経験する中で、地域、ホール、芸術団体、行政が連携することの重要性を知った。これまでの演奏家の視点では気づかなかった側面からコンサート等の事業を考える機会となった。

研修として実践したワークショップの1コマ



石見神楽の衣装を特別に着させてもらったことも貴重な経験

沖縄県南城市にあるシュガーホールの小川恵祐さん（企画・制作）は、島根県芸術文化センター・グラントワにて2ヶ月間の研修を行った。地域芸能が盛んなイメージがある沖縄だが、劇場が市民参加型の事業に取り組む際、どのように地域の人々との関係を築いていくかを課題に感じていた。グラントワでは市民ボランティアの活躍も大きく、劇場と地域の人々が文化振興というミッションを共有しながら、劇場運営を市民が支えているような気概を感じた。地方における公立劇場の役割を確認したという。



舞台上使う道具を製作する様子

水戸芸術館の目原瞬さん（舞台技術）は、北九州芸術劇場にて2ヶ月間の研修を実施。危険箇所での注意喚起の表示や、機材の安全かつ効率的な保管等、市民の利用も多い館ならではの工夫を発見できた。大勢いるスタッフ間での情報共有の仕方も含めて、作品を上演するだけに留まらない、劇場の技術スタッフとしての新たな視点が得られたという。また、ワークショップに携わったことで事業への関わり方を改めて考える機会となった。

国内専門家フェローシップ制度  
詳細は下記サイトから  
[www.geidankyo.or.jp/renkeikoryu/](http://www.geidankyo.or.jp/renkeikoryu/)

## 新たな創造活動の第一歩 歌声(オペラ)の魅力へと誘うミニライブ&トーク

2018年3月3日(土)

主催・制作=公益財団法人東京二期会

共催=芸団協

会場=芸能花伝舎



東京二期会が新しくスタートするコンチェルタ  
ンテ・シリーズ第1回として上演される、ベッリー  
ニ作曲イタリアの名作オペラ『ノルマ』。3月半  
ばの公演に先駆け、ポリオーニ役のテノール歌  
手城宏憲さんによるミニライブと、演出家菊池  
裕美子さんのトークが行われた。

ミニライブでは、歌劇『リゴレット』の楽曲から  
「女心の歌」と、歌劇『蝶々夫人』より「さらば愛  
の家」を披露。ドラマティックな歌声が会場を包  
みこんだ。城さんが菊池さんと出会ったのは、超  
難役テノールのカバーキャストを務めていた時  
のこと。急遽代役でデビューすることになったが、  
菊池さんはその時のことを語りながら、「彼なら  
大丈夫、安心して任せられるテノールです」と太



鼓判を押す。城さんは15歳でパパロッティのオ  
ペラに魅了され、ロックシンガーから声楽家を目  
指したという意外な生立ちを話した。日本での  
下積みの後、イタリアで修行し、難易度の高い  
ベルカント唱法を学んだ。「スペシャリストを目指  
す現代だが、あらゆる技術を習得するスターが  
いた時代のバイタリティに、現在もお刺激を  
受けています」との力強い言葉に、来場者も本  
番への期待が高まったようだ。

『ノルマ』は、男女3人の愛憎劇。菊池さんは、  
難易度の高い楽曲をしっかりと観客に届けた上  
で、ストーリーの理解を深めるような演出にし  
たと語った。

※今後も同様のイベントを開催予定。

芸能花伝舎は、多くの皆様に支えられています。  
ご支援ありがとうございました。(50音順・敬称略/2017年度)

### ■芸団協サポート会員(団体)

特定非営利活動法人 ACT.JT  
一般社団法人 衛星放送協会  
一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会  
公益財団法人 新国立劇場運営財団  
一般社団法人 タンダバハダンスカンパニー  
株式会社 TBSテレビ  
学校法人 東成学園・昭和音楽大学  
株式会社 俳優座劇場  
びあ株式会社  
表現教育花伝舎倶楽部  
富士ゼロックス株式会社  
Vocal Arts Service Center  
宮越塾

### ■サポート会員(個人)

太田 耕二  
岡田 澄子  
小泉 直樹  
崎元 譲  
白津 守康  
鈴木 公夫  
田中 敦  
千葉 和美  
芳地 博光  
増山 健  
丸山 ひでみ  
安江 美加  
横山 啓子

### ■一般寄付(団体)

有限会社 鶯谷萬屋  
株式会社 共栄会保険代行  
Jump Start 株式会社  
一般社団法人全日本児童舞踊協会  
株式会社二期会21  
一般社団法人日本コミュニティ放送協会  
株式会社ビーフェイス  
株式会社森の印刷屋  
安与商事株式会社 京懐石 柿傳  
一般社団法人米山文明 呼吸と発声研究会  
(非公表4団体)

### ■一般寄付(個人)

愛森 泉 田部井 真人  
浅木 正勝 徳永 良治  
安藤 和宏 富田 政晴  
伊東 達郎 永井 美由紀  
今井 美紀代 中村 修  
今村 草玉 畠山 太郎  
大井 正文 花蔭 美喜  
大野 幸則 浜岡 光代  
菊田 正行 久松 慎一  
菊地 宏幸 平多 美砂子  
木村 美麗 藤村 浩  
小池 幸子 三木 奈央子  
小池 裕子 水野 立也  
近藤 美子 溝口 摂  
齋藤 譲一 陸 恭子  
佐々木 剛 安江 龍子  
澤田 裕 安江 美加  
山遊亭 金太郎 山上 透  
島田 友子 山崎 徳美  
島田 葉子 山本 岳人  
セキリイ 陽子 若葉 伊左江  
竹内 倫美 和田 松夫  
竹内 秀男 (非公表85名)

### ■震災復興に文化芸術を基金

石井 聡志  
沖国 雅俊  
小田 朋子  
丸山 ひでみ  
(非公表1名)

## 日本の多様な芸術を世界へ発信「東京アート&ライブシティ」構想

多様な芸術が集積している日比谷・銀座・築地をグルメ&ショッピングとともに世界に発信するプロジェクトが始動します。能楽、歌舞伎、宝塚からミュージカル、演劇、オペラ、そしてクラシック音楽まで、多様な劇場・ホールが集積し、ライブハウスや映画館、ギャラリーがひしめき合う地域で関係者が連携していくことで新たなシーンの創出が期待されます。エリア情報が集約されたウェブサイトが、4月20日にオープン。観光客に向け情報発信の

強化を目指し、近くオンラインでのチケット購入への導線も整備されます。www.artandlive.net



観世能楽堂 (GINZA SIX) での記者発表の様子

## 【花伝舎カレンダー】 芸能花伝舎を拠点に展開している事業いろいろ

### キッズ伝統芸能体験

能楽、長唄、三曲、日本舞踊の“和のお稽古”プログラム。16回または10回のお稽古とりハーサルを経て発表会に臨みます。詳細、お申込みはウェブサイトから。

申込締切: 6/6 (水)

稽古開始: 8 ~ 10月

\*コースによって異なります。

発表会: 12/23 (日・祝)

または 12/24 (月・休)



対象: 小学生 ~ 高校生 参加費: 15,000円

www.geidankyo.or.jp/kids-dento/

### 5/5 芸術体験ひろば2018

子どもたち・ご家族で楽しめる「芸術体験ひろば」。乳幼児から小学生を対象とした演劇、音楽、伝統芸能の鑑賞や体験などの様々なプログラムを予定。校庭には空いっぱいに泳ぐこいのぼり、地元町会や商店会等による各種模擬店も。



www.geidankyo.or.jp/12kaden

### ご支援のお願い

より良い稽古環境と子どもたちに良質の芸能体験を提供し続けること。この二つは、芸能花伝舎の運営に携わる私たちの願いです。将来にわたって持続するためには、皆様のご支援が必要です。是非、ご寄付をお願いいたします。www.geidankyo.or.jp/support/

## 公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会

● 東京オペラシティ事務所  
〒163-1466 東京都新宿区西新宿3-20-2  
東京オペラシティタワー11階  
Tel: 03-5353-6600 Fax: 03-5353-6614

● 芸能花伝舎事務所  
〒160-8374 東京都新宿区西新宿6-12-30  
Tel: 03-5909-3060 Fax: 03-5909-3061